



同窓会だより

江戸川総合人生大学同窓会
令和3年10月1日発行 第45号
<https://www.jinseidaigaku-dousoukai.net/>



東京オリンピック2020『ボランティア体験記』



チェックイン風景

フィールドキャスト（大会ボランティア）に参加して

まち12期 箱島 実

2018年10月大会ボランティアに登録し、2020年3月採用（役割と会場）が確定。喜んだのも束の間、新型コロナ感染拡大によりオリンピックの開催が延期されました。落ち込みましたが1年後の開催を信じ、オンラインによる研修を続けました。開催日が近づくにつれこの感染状況下でもボランティア活動をするのかと批判を受けることもあり、参加して良いのか迷うこともありました。

オリンピックが始まり、ボランティア活動が始まりました。所属チームの役割は、幕張会場に集うフィールドキャストに対するサポートや盛り上げです。主活動はフィールドキャスト等のチェックイン（入場登録とグッズ提供など）です。他には、いろいろな方に書いていただいたメッセージカードの飾りつけ掲示、さらには休憩室・ダイニングエリアの管理（清掃・消毒、チョコやアイスの補充等）などでした。



センター内の掲示と箱島さん

無観客開催が決まり観客対応のボランティアは役割変更や活動中止になりましたが、私はフィールドキャスト対応のため、シフトの縮小や役割変更もなく、12日間の活動ができたことは幸いだったと思います。役割柄、会場にいても観戦はできませんでしたが、充実した毎日が送れ、参加して良かったと思います。

シティキャスト（都市ボランティア）に参加して

※港区芝浦在住 大下 登美子

ボランティア活動歴は長く、港区のまち作り活動をしていた時にオリパラのボランティア募集にめぐり合い「これは私の出番だ」とシティキャストに手を挙げました。

来日する外国の方々は勿論、このイベントに参加される方々にも、元気に楽しんで欲しいとおもてなしの心で接していこうと思っていました。しかし、無観客での開催が決まり、積み重ねてきたオンライン研修は??と気が萎えそうになりましたが、学んだことは日常生活に役立てて行こうと心に誓いました。そんな中、待ちに待った活動のメールが入り、見るとどの活動場所も高倍率でした。8月7日、ユニフォームに手を通しパラリンピックギャラリー銀座に行きました。担当は通行人への来場の声掛け、入場者の手指消毒と体温測定で、2人一組になり息を合わせ工夫しながら対応しました。終了したときはシティキャストとして活動できたことへの誇りと充実感で感無量でした。（※M.M.グループのメンバーより紹介）



●コロナで変わった暮らし



国際8期 長谷川 孝子

江戸川区スポーツセンターでのプール水中ウォーキングと剣道の練習は、緊急事態宣言による閉館の度に休会。喫茶店で行っていた週2回の語学の個人レッスンは、リモートレッスンに変更。週1回通っていた三味線の先生宅へは回数を減らし、バス中も稽古中もマスク、先生とも2mのディスタンスが取れるので続行中。皆さんも概ね同様ですね。運動不足解消のため、家の中ではラジオ体操、家の外では木刀で素振りをしています。人と人との接触を控えるのは誰もが最優先して行う事ですが、制限がある中でも自分で工夫して乗り越えていると信じて止みません。

●コロナ禍で手術が延期に



国際1期 井上 文子

ギッシュ学科長退任の会で皆さんとお会いできると楽しみにしていた頃「乳ガンです、抗がん剤治療から始めましょう」と言われました。2回入院になり、その間に楽しみにしていた会や音楽祭が終わっていました。加えて「コロナの関係で、急がない手術は後にします」と言われ、「私の手術は急がないの?」と不思議な感覚。その後やっと「今、コロナの患者も一般患者もいないので、今の内に手術をしましょう」と言われた時にはホッとしました。1週間の入院で、今までにはない、静かな病院で、家族も面会禁止。ワクチン接種も終わり、やっと楽しい演奏会も開催できました。これからも楽しく活動して参ります。

●コロナ禍での介護



介護10期 山口 幸代

ひとりで暮らす92歳の母は週3回のデイサービスを利用し、顔見知りの利用者やスタッフに支えられ充実した日々を過ごしていました。昨年暮れコロナが蔓延し、非常事態宣言後には利用できる制度に制限が出たり、自粛を余儀なくされたりと過酷な状況となってきました。母をこのままデイサービスに通わせてよいものだろうか?通う頻度を減らしてみようかと、大いに悩み抜きました。感染のリスクを考えると、新型コロナウイルスを理解していない母の意見に従うのは危険でしたが、あんなにも楽しく通っている気持ちを尊重してデイサービスに通い続けることにしました。それから間もなくデイサービス内で感染し入院することになってしまいました。幸いにもほどなく治癒し心から安堵した次第です。

●四度目の緊急事態宣言の中



国際8期 江口 武人

7月18日から葛西臨海公園渚でスタートした海水浴体験、里海まつりのイベントも新型コロナウイルスの感染者急増ですべてが中止。8月2日からは「波打ち際で水あそびを楽しんで下さい」に変わりました。紙芝居もコロナ前は「皆さん、この海苔は葛西の海で獲れた海苔ですよ」と海苔を味わってもらいながら話を進めていました。紙芝居の締めは「2月の日曜日には海苔すき体験&試食イベントを行っています。昔ながらの手作業で板海苔ができるまでの工程を見られて、誰でも海苔すき体験ができます。ぜひご参加ください。」でした。コロナが終息して来場する皆さんが海苔の味噌汁やワカメのシャブシャブを美味しそうに味わう、そんなイベントができる日を心待ちにしている今日この頃です。

9月7日『在校生と人大ボラ連の集い』開催報告

人大ボランティア連絡会世話人会代表 門田 信雄

人大ボラ連世話人会では9月7日に第8回目となる「在校生と人大ボラ連の集い」を人大講義室1, 2を使用し開催しました。この「集い」は一緒に活動する仲間を確保したい活動グループの代表者と社会活動する場を求める在校生が一同に集まり情報提供、意見交換する場として毎年開催してきたものです。昨年はコロナ禍のため残念ながら開催を断念しました。本年についてはまだ新型コロナウイルスの感染が収まらない中ですが、活動グループ、在校生それぞれのニーズは大きいと考え感染防止対策を徹底した上で開催することを決定しました。例年活動グループ代表者と在校生が一同に集まり開催していましたが、今回は密を避けるため1日を3つの部に分割して開催しました。

密を避ける座席配置、机・イス・マイクの消毒、検温、マスク着用等を徹底しました。第一部は外国人を対象とする活動グループ、第二部は子どもたちを支援する活動グループ、第三部はまち・地域づくり関連の活動グループと熟年の方々を対象とする活動グループ合同ということで開催し、3部合計で25の活動グループと延べ60人の在校生が参加し、各部とも熱心な活動PRと質疑応答が行われました。



開会の挨拶



熱意こもる活動PRと聞き入る在校生の皆さん

活動グループの中でも、コロナ禍で社会的ニーズがより高まっているもの、リモートを利用して活動展開しているもの、やり方を工夫しながら活動を継続しているもの、活動を控えているもの等、状況により様々ですが、共通してコロナ後も見据えて活動を継続・発展させるための人材を確保したいとの思いが強く感じられました。また、真摯な質疑から在校生の社会活動の場を求める熱意を感じ取ることができ、「絶対に必要な場だ、思い切って開催して良かった」との思いで締めくることができました。

開催に向けてご尽力頂いた大学事務局の皆様、同窓会関係者の皆様には心から感謝しております。人大ボラ連世話人会では今後も在校生と活動グループを結びつける活動に注力していきたいと考えております。よろしくお願い致します。

ON LINE 大学祭開催報告（8月1日～31日）『今こそ前へ！』

人生大学では「今こそ前へ！」をテーマに在校生が中心となりコロナ禍での1年間の成果を展示とオンラインで開催しました。

- ・開催場所：しのぎ文化プラザ
3階企画展示ギャラリー
- ・オンライン：人大ホームページにて



ギャラリー展示

子ども支援学科 6期 『ころくかい』 紹介

「子どもの笑顔が見たい！子どもは笑顔で育てて欲しい！そして子どもを笑顔で育てて欲しい！」

子ども6期 井上 伸也



「ころくかい」スタートの頃

「少しでも子どもや子育て中の方のお役に立ちたい」という想いのもと、健康サポートセンター子育て広場でのお手伝いや、すすくスクールでの遊びの指導、学校応援団での学習支援や安全見守り、地域イベントでの遊びの指導など、メンバーは公共の場で活動しています。「ころくかい」として特別なイベントは行っていませんが、様々な活動の支援をかさねています。いろんな機会に、いろんな場所で、自分に出来ることを、出来る範囲で、肩の力を抜いて、ともに楽しみながら、子どもの明るい笑顔のために行動しています。



子ども未来館 工作の様子

● 活動の一例を紹介

2010年に「ころくかい」の活動を始めた頃、子ども未来館が開館しました。その年から紙・段ボール材料を使った物作りや工作のプログラムを楽しませていただいています。10年以上良く続いたなと思います。身近な場所で根気よく続けることを考えていた「ころくかい」にとって、子ども未来館の開館はグッドタイミングでした。それ以来のお付き合いで、たくさん子どもたちと段ボール製のイス作りや宝物箱作り、紙加工に使う道具類やモノづくりのための準備などを学び、楽しむことが出来ています。コロナ禍での今年も館の感染防止対策のご努力で、参加者を10名と通常の半分以下に絞ることにより実施することができました。コロナ禍を感じさせられたことは、子どもたちがおしゃべりも無く工作に取り組む姿でした。これもコロナ禍における日常の生活様式なのでしょう。



作った段ボールイス

今は一日も早く子どもたちの明るい話し声を聞きながらの活動に戻れることを願っています。これからも、子どもにいろんなことを体験してもらい、私たちも一緒に楽しむことを、無理せず続けて行きます。

《編集後記》

今号は、皆様が発表できる「参加型特集」を組みました。紙面の関係から要約を掲載しておりますが、ご投稿いただいた原稿全文はホームページで紹介しています。前号よりホームページ運営委員も編集に加わっています。今後とも「魅力ある同窓会だより」のためにご意見、活動状況の情報、ご投稿をよろしくお願いいたします。

広報部会長 松浦松子

《第14期広報部会》

宇佐見かつ子（国8）、加藤道雄（まち11）、衣川章嗣（まち9）、黒田健司（国13）、高津陽子（まち14）、松浦松子（介12）、品田正子（国1）、川島多美子（介6）、長谷川忠（国6）五十嵐英男（子10）

「同窓会だより」は皆さんの会費で作っています。